

患者さんのための頰椎後縦靱帯骨化症
ガイドブック

—診療ガイドラインに基づいて—

患者さんのための 頸椎後縦靱帯骨化症 ガイドブック

診療ガイドラインに基づいて



編集：日本整形外科学会診療ガイドライン委員会
頸椎後縦靱帯骨化症ガイドライン策定委員会
厚生労働省特定疾患対策研究事業
「脊柱靱帯骨化症に関する研究」班



南江堂

編集

- 日本整形外科学会診療ガイドライン委員会 頰椎後縦靱帯骨化症ガイドライン策定委員会
- 厚生労働省特定疾患対策研究事業「脊髄靱帯骨化症に関する研究」班

策定組織

◆日本整形外科学会

理事長：中村 耕三

◆日本整形外科学会診療ガイドライン委員会

担当理事：松下 隆

委員長：四宮 謙一

◆頰椎後縦靱帯骨化症ガイドライン策定委員会

責任者：米延 策雄

◆患者さんのための頰椎後縦靱帯骨化症ガイドブック

責任者：米延 策雄

執筆者：

まえがき	米延 策雄	国立病院機構大阪南医療センター
第1章	市村 正一	杏林大学医学部整形外科
第2章	山崎 正志	千葉大学大学院医学研究院整形外科
第3章	山本 謙吾	東京医科大学整形外科
第4章	徳橋 泰明	日本大学医学部整形外科
第5章	千葉 一裕	北里大学北里研究所病院整形外科
資料	竹下 克志	東京大学医学部附属病院整形外科・脊髄外科

アドバイザー：

第1章	里見 和彦	康和会久我山病院
第2章	松永 俊二	今給黎総合病院整形外科
第3章	田中 雅人	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・医学部整形外科
第4章	田口 敏彦	山口大学大学院医学系研究科整形外科
第5章	岩崎 幹季	大阪大学大学院医学系研究科・医学部整形外科

厚生労働省特定疾患対策研究事業

◆「脊髄靱帯骨化症に関する研究」班

班長：中村 耕三（国立障害者リハビリテーションセンター）

◆診療ガイドライン策定分科会

分担研究者：

米延 策雄，四宮 謙一，戸山 芳昭，田口 敏彦

この本を作ったわけ

★頸椎後縦靱帯骨化症

1838年にイギリスで報告されたといわれていますが、今日の診断治療につながるものとしては日本での報告となります。

★調査研究班

厚生労働省特定疾患対策研究事業「脊柱靱帯骨化症に対する研究」班

★日本整形外科学会

社団法人日本整形外科学会 (<http://www.joa.or.jp/jp/index.asp>)

★頸椎後縦靱帯骨化症 診療ガイドライン

日本整形外科学会診療ガイドライン委員会頸椎後縦靱帯骨化症ガイドライン策定委員会・厚生労働省特定疾患対策研究事業「脊柱靱帯骨化症に関する研究」班 編. ISBN: 978-4-524-24075-3, 南江堂 2005

けいついこうじゅうじんたいこっかしょう
頸椎後縦靱帯骨化症、この病気は1960年に日本で発見されました。未知の病気であり治療が困難であることから、1975年に厚生省(当時)の研究補助事業による調査研究班が設置されました。その後、この調査研究班を中心に、多くの整形外科医によりさまざまな調査や研究が行なわれてきました。その結果、病気の原因あるいは診断法や治療法が相当明らかになってきました。しかし、この病気はまれな病気であり、この病気についての知識は一般の方々の間では当然として、医療従事者の間でも十分に広まっていないのが現状です。

そこで調査研究班と日本整形外科学会は共同で、過去に行なわれた研究の成果を整理し、より確かな事実を診療ガイドラインの形でまとめることにしました。平成14年から3年をかけて、関係する論文を選び出し、その内容を吟味し、英語論文648篇、日本語論文1,687篇をもとに「頸椎後縦靱帯骨化症診療ガイドライン」を作りました。

診療ガイドラインの定義は、「ある特定の臨床状態に対する適切な保健医療について、医師と患者の判断を支援するために、系統的に開発された記述(ステートメント)」とされています。したがって、診療ガイドラインは患者さんにも理解しやすいことが求められます。そこで、研究班と日本整形外科学会は「頸椎後縦靱帯骨化症診療ガイドライン」を読み解いていただくために、患者さん・一般向けの手引きを作成することとしました。そのために、本書では頸椎後縦靱帯骨化症(OPLL: ossification of posterior longitudinal ligament)を理解するために必要な解剖や生理などの基礎知識、またこの病気に関係する医療や福祉に関する知識も含めて記載しま

した。

最後になりましたが、本書を作成したもっとも大きな理由は、この病気に悩む患者さんや家族のみなさんの、この病気をよく知りた
い、正しい知識を持ってこの病気に立ち向かいたいとの熱い気持ち
に応えたいという思いからです。いわゆる難病(特定疾患)と診断
され、本人も家族もパニックになり、適正な行動がとれない。この
ような方々が少なくありません。冷静な療養の姿勢はこの病気を克
服するもっとも大事な手段です。現在はっきりしている事実はなに
か、それが自分の状況にどのように当てはめることができるのか、
主治医と相談しながら、本人にもっともふさわしい診療を選ぶ手助
けとなることを願っています。

この本を利用するにあたって

診療ガイドラインは、

1. おおよその人に当てはまることが書いてあります。しかし個人差がありますので、自分に当てはまるかどうかは主治医に相談してください。
2. 医学知識を十分に持っていない方を対象に、わかりやすいことを優先して書いてあります。割り切って書いてある点、詳細を省いてある点があります。
3. 全体を読んでください。一部だけを拾い読みして判断すると、誤解することがあります。

一般に診療ガイドラインは患者数が多い病気について作られます。それは、特に治療法について患者数が多いほどデータがたくさん集まるため、統計をとってより確かな事実を導き出せるためです。頸椎後縦靭帯骨化症は患者数が少ない「希少疾患」なので、統計学的に確かな事実がまだ得られていない点もあります。しかし、統計学に基づかない場合でも利用できるガイドラインとなるように、専門医の経験に基づいて補いました。

□「推奨度」とは□

最近の医師向けのガイドラインは、内容の信頼性を担保するためにエビデンス（科学的根拠）に基づいて作成されています。この本でも記述の一部は文献的裏付けに基づいて解説しました。そのエビデンスの強さに基づいてAからIまでの5段階で「推奨度」を表示してあります。本書を読む時の参考にしたいと思っています。

推奨度 A：行うよう強く推奨する
推奨度 B：行うよう推奨する
推奨度 C：行うことを考慮してもよい
推奨度 D：推奨しない
推奨度 I：推奨度を定めるだけのエビデンスがない

一方、推奨度のついていない設問については、現時点で十分なエビデンスはありません。そのような質問については、医学的に意見の一致が得られている内容を解説しています。

4. 難しい用語がたくさん出てきますので、できるだけ用語の解説をつけました。用語の違いで、特に注意していただきたいのは「靭帯骨化」と「靭帯骨化症」です。靭帯骨化は年齢的な理由による変化としても生じるので、まず気にする必要がないものです。一方、「症」がつくといわゆる病気となり、これによる症状や障害が出る恐れがあります。この本では区別して使っていますので、理解して読んでください。

頚椎後縦靭帯骨化症は頚椎に起きる病気です。その結果、脊髄に障害が生じます。そのため、この本は頚椎後縦靭帯骨化症という病気を理解してもらうために、最初に脊椎や脊髄の構造やしくみ(解剖)や働き(生理)について解説しています。その後、この病気の原因や遺伝の説明をし、放置すればどうなるか(自然経過)を述べて、さらに診断、治療について解説記事とよくある質問を紹介しています。そして最後に、この病気に関係する医療や福祉の支援について紹介してあります。

目次

第1章 頸椎・頸髄のしくみと働き(頸椎の解剖と生理)1

背骨は体の柱。体を支え、動かす——1

頸椎のしくみ——3

脊髄・頸髄は脳と体をつなぐ神経——4

よくある質問——6

Q1 後縦靭帯や黄色靭帯はどこにありますか？ 6

Q2 頸椎の脊柱管が狭いといわれましたが、どういうことですか？ 7

Q3 首がまっすぐだといわれましたが、よくないことなんですか？ 8

📖 サイドメモ 8

Q4 神経根という言葉をよく聞きますが、頸髄との関係はどうなっていますか？ 8

第2章 頸椎後縦靭帯骨化症はどのような病気か？そして、病気はどのように進むのか？(疫学・自然経過)9

後縦靭帯骨化症は日本で見つけられた——9

厚生労働省の支援で研究が進められてきた——9

後縦靭帯骨化症は日本人だけの病気ではないが、やはり日本人に多い——9

男性に多い——10

発生には体質や遺伝の背景がありそうである——10

症状が出るのは中年以降が多い——10

症状のある患者数は2万3千人くらい——10

骨化があっても症状が出ない場合もある——11

経過はさまざま、あわてる必要はない——11

重症になれば、手術を考える——11

転ばないように、ケガには注意しよう——12

骨化は少しずつ大きくなる——12

よくある質問——12

Q1 日本人はほかの国の人たちと比べて後縦靭帯骨化症にかかりやすいのでしょうか？ 12

Q2 手術を受けないと将来は寝たきりになりますか？ 13

Q3 脊髄症状が重症ならば、手術を受けたほうがよいのでしょうか？ 14

- Q₄ どんなことに注意すればよいのですか？ 14
- Q₅ 症状はいったん発症すると、その後、どのように進行するのでしょうか？ 15
- Q₆ 転倒や事故などの軽いケガでも、手足の麻痺が起きやすいのでしょうか？ 16
- Q₇ CT検査ではじめて見つかるような小さな骨化が、将来的に脊髄を圧迫するような大きな骨化になる可能性がどれくらいありますか？ 17

第3章 頸椎後縦靭帯骨化症になぜなるのか？ どういった症状が出るのか？ (成因・病理・病態)19

- 頸椎の後縦靭帯が厚くなり骨に変わる —— 19
- 靭帯が骨に変わるが、その骨は普通の骨 —— 20
- 頸椎だけでなく、ほかの脊椎や関節の靭帯も骨に変わる、骨のできやすい体質 —— 20
- 遺伝的背景がこの病気にはある —— 21
- この病気の症状は2種類、神経麻痺と脊柱の運動障害 —— 21
- 神経の圧迫症状は手足のしびれ感や痛み、手足の運動障害 —— 21
- 脊柱の運動障害で、体が硬く、ときには痛みも —— 23
- よくある質問 —— 24

- Q₁ 頸椎後縦靭帯骨化症は遺伝しますか？ 24
- Q₂ 体型と後縦靭帯骨化と関係がありますか？ 24
- Q₃ カルシウムの摂り過ぎは、靭帯骨化の原因になりますか？ 25
- Q₄ 糖尿病の人は後縦靭帯骨化になりやすいですか？ 25
- Q₅ 首に負担をかけると、後縦靭帯骨化が生じやすいのですか？ 26
- Q₆ 後縦靭帯骨化があっても脊柱管が広ければ脊髄症状は発症しないのでしょうか？ また骨化がどのくらい進むと症状が出るのでしょうか？ 26

第4章 頸椎後縦靭帯骨化症はどのようにして診断するのか？ (診断) 29

- 頸椎後縦靭帯骨化症を疑う症状は首の痛み、手足のしびれ感、あるいは手足の運動障害 —— 29
- 頸椎後縦靭帯骨化は普通のレントゲン検査で見つけられる —— 32
- 後縦靭帯骨化による症状があってもはじめて病気といえる(後縦靭帯骨化「症」) —— 32
- 後縦靭帯骨化症の診断は診察とレントゲン検査が基準 —— 32
- 画像検査は目的によっていろいろなものが行なわれる —— 33

一般的なレントゲン検査で見る骨化の形にはいくつかの形がある——36
画像検査の結果は、診察したうえでの判断・見解や今までの知識（エビデンス：証明されている根拠）と併せてはじめて意味がわかる——37
首や肩の痛み、手足のしびれ感、あるいは手足が不自由になる病気の種類は多い——37

よくある質問——38

- Q1 この病気の症状は？ 38
- Q2 病院を受診しなければいけない症状は？ 39
- Q3 この病気の診断は？ 39
- Q4 この病気の早期発見法はありますか？ 40
- Q5 同じような症状の疾患はありますか？ 40
- Q6 専門医に診てもらう必要がありますか？ 41
- Q7 脊椎・脊髄外科手術の専門医を知るにはどうすればよいですか？ 41

第5章 頸椎後縦靭帯骨化症はどう治すのか？（治療）…………… 43

頸椎後縦靭帯骨化症の治療は目的に応じて使い分ける——43
治療は保存療法と手術療法に分けられる——43
症状の起きるメカニズムに応じて治療を選ぶ——45
民間療法を受ける前に必ず医師に相談する——49
軽症では保存療法から始める。しかし、手術のタイミングを逃さない——50
手術を受けるか、待つか、の判断にはいろいろなことを考え合わせる——50
手術の目的は神経（脊髄、神経根）の圧迫を取り除くこと。そのための方法は大きく分けて2つ——51
前方法と後方法の成績は違わないが、それぞれの利点と問題点がある——52
手術の結果は神経（脊髄、神経根）の回復力次第である——53
どの手術法を選ぶかは、靭帯骨化の形や大きさ、頸椎のわん曲、体力、また手術の特徴を考え合わせて、医師と相談して決める——53

よくある質問——55

- Q1 どこで、誰から治療を受けたらよいのですか？専門医あるいは医療機関別の患者数や治療成績はわかりますか？ 55
- Q2 新しい薬や治療法の開発や研究の情報を手に入れるにはどうしたらよいですか？ 55
- Q3 保存療法にはどのようなものがありますか？ 56

- Q④ 頰椎後縦靱帯骨化症に対する有効な薬はありますか？ 56
- Q⑤ 痛みやしびれ感に対する有効な薬はありますか？ 57
- Q⑥ 日常生活では何に気をつければよいのでしょうか？ 58
- Q⑦ 何か日常でできるリハビリテーションはありますか？ 58
- Q⑧ 民間療法は受けてよいのですか？ 59
- Q⑨ 手術にはどのようなものがありますか？また手術法によって結果に違いがあるのでしょうか？ 59
- Q⑩ 頰椎後縦靱帯骨化症と診断されたら、どういった治療を受けるとよいのでしょうか？ 61
- Q⑪ どのような症状が出たら手術を受けたらよいのですか？ 62
- Q⑫ 症状がなくても、ケガで麻痺が出る前に手術をしたほうがよいのでしょうか？ 63
- Q⑬ 手術をするなら、症状が軽くても若いうちにしたらよいのでしょうか？ 63
- Q⑭ 手術後の経過や手術成績はどうでしょうか？ 64
- Q⑮ 手術をしたらしびれ感などの症状はどの程度とれるのですか？どの程度元の生活に戻れますか？ 65
- Q⑯ 手術後は仕事に復帰できますか？ 66
- Q⑰ 手術の際にはどのような合併症がありますか？その頻度はどれくらいですか？ 67
- Q⑱ 手術後のリハビリテーションはどうしたらよいのですか？ 68
- Q⑲ 手術後の経過が思わしくない場合、その原因にはどういことが考えられますか？ その対処法はありますか？ 69
- Q⑳ 手術後でも後縦靱帯骨化は大きくなることがありますか？ 70
- Q㉑ 手術の結果にはどのようなことが影響しますか？ 71

資料 医療や福祉関係の補助や支援体制、団体について 73

- はじめに——73
- 特定疾患について——74
- 公費負担について——74
- リハビリテーションの日数制限について——75
- どの病院や医師にかかれればよいのでしょうか？——76
- 患者の会について——76
- 後縦靱帯骨化症の認定基準——77
- 脊柱靱帯骨化症に関する調査研究班——78

索引 81